

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	東邦大学医療センター大橋病院産婦人科学講座
別タイトル	Department of Obstetrics and Gynecology, Toho University Ohashi Medical Center
作成者(著者)	釘宮,剛城
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.09.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(3). p.134 135.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021 019
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD54925980

教室(診療科)紹介(124)

東邦大学医療センター大橋病院 産婦人科学講座

産科婦人科学講座 (大橋)

教授：田中京子
講師：村上 功
医局長：釘宮剛城

東邦大学医療センター大橋病院は東邦大学第2番目の付属病院として昭和39年、東京オリンピックの年に開院しました。産婦人科は昭和56年4月に木下 佐先生が初代教授として就任され、その後昭和59年2月に二代教授岩城 章先生、平成3年3月に三代教授小倉久男先生、平成19年5月に四代教授久布白兼行先生、平成30年7月より五代教授として田中京子先生が就任され現在に至っています。三代教授小倉久男先生が産婦人科を率いておられた時には約10名の先生が勤務していたようですが、小倉久男先生が平成18年3月に退官された後約1年間教授が不在だったこともあり医局員が減少し、四代教授久布白兼行先生の時には5人体制となりました。

現在は田中京子教授のもと、村上 功講師、高橋怜奈助教、井上亜結実医師(2021年4月1日に東邦大学医療セン

ター大森病院より6か月間の研修のため赴任)と私の計5名の常勤医師で臨床を行っています。当科は思春期、生殖期、成熟期、更年期、老年期と女性のあらゆるライフステージにおける諸疾患に関与する診療科ですが、平成26年4月より大学の方針によって産科診療を取りやめ、婦人科診療に特化するという大きな決定がなされ、婦人科良性腫瘍に対して内視鏡手術、悪性腫瘍に対して根治手術、化学療法、放射線療法に力点を置いて診療・研究・教育を行っています。学会の専門医に関しては日本産科婦人科学会専門医をはじめとしてサブスペシャリティーとしての婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、癌治療認定医機構認定医、日本臨床細胞学会細胞診専門医などの資格を有しています。婦人科腫瘍専門医の取得には婦人科腫瘍認定施設での研修が必須で、現在、婦人科腫瘍認定施設は全国で252施設のみですが、当院は婦人科腫瘍認定施設として認定されています。

2018年6月20日より新病院開院となり、本年度4年目となりましたが新規浸潤がんは徐々に増え、2020年1月1日から12月31日までで、子宮頸がん18例、子宮体がん20例、卵巣がん・卵管がん・腹膜がん18例(さらに卵巣境界悪性腫瘍は4例)でした。当科の特色として、田中先生は婦人科がんのなかでも特に若年者に増加傾向である子宮頸癌における妊孕性温存手術を専門としており、本来なら子宮を摘出さなくてはならない初期の浸潤子宮頸癌に対して子宮の一部を残し妊孕性温存を可能とする広汎子宮頸部摘出術(トラケレクトミー)についての臨床経験は日本トップのレベルです。当院でもすでに11例施行しています。また、2021年7月より特殊外来として毎週火曜日午後1時～5時月経困難症(生理痛)専門外来を高橋怜奈助教が開設しました。女性労働協会の調査によると、月経困難症は生殖可能年齢女性の25%以上に認められ、若年女性ほどその頻



左から釘宮、田中、村上



左から釘宮、田中、高橋、村上、井上

度は高くなり 25 歳未満では 40%以上に認められることより、ニーズが高いと考えられます。また連携医療機関との関連を強化するため、「新大橋婦人科フォーラム」を年に 2 回（11 月に第 7 回を開催予定）開催しています。本年度は 6 月 17 日に第 6 回を開催しましたが、コロナ禍の中 26 名

の近隣の医療機関の先生に参加して頂きました。今後も、特に目黒区、世田谷区、渋谷区の患者さんを中心に質の良い医療を提供するため邁進していく所存です。

（釘宮剛城）

DOI : 10.14994/tohoigaku.2021-019